

BUSINESS

# リーダーになる!

実践する上司学。  
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。



嶋津良智 ■ リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

## 第102回 育てることは社会貢献

素晴らしい人材を育て社会に送り込むことこそが「上司学」の基本です。人を成長させる、良い言葉・思い込み・学びを伝えられる上司になりましょう。

わたしには、仕事の基礎を教えてくれた上司がいまも。わたしは性格上、上から厳しくものを言われたり、無理強いされたりすることが好きではないのですが、その上司はうまくわたしに接してくれ、仕事人としての基礎を築いてくれました。その上司との付き合いは20年以上になり、もちろん今でも付き合いがあります。

酒を飲む機会がありました。そんな席では懐かしい話がたくさん出てくるのですが、驚くべきことは、そこに集まっている5人全員が今では会社を経営しているということなんです。「これですごいことだなあ」と思いつながら、昔を振り返ってみると、やはりいい上司の下で働いている部下の多くは成績が優秀だったり、しっかり成長したりしています。

反対に、ダメな上司の下で働くと、部下たちはあまり成長していません。人は、誰と出会うか、誰に教わるか、誰に相談するかによって人生が変わります。

### 良い言葉・思い・学び 部下にインストール

人の体が食べ物から吸収するビタミンやミネラルといった栄養素から形成されるように、人間の成長は、良い言葉、良い思い込み、良い学びよって形成されます。つまり、仕事の現場でこれらを部下にインストールするのが上司です。それほどまでに、上司というのは大きな影響力を持つ存在なのです。

わたしが慕う上司の下で仕事をした人間は、それなりに成長を遂げ、会社の経営者となつて、今度は部下を育てる立場になっています。わたしの下で働く部下たちは、もちろんその上司の存在など知りません。しかし、わたしの存在を通して、その上司の思い、遺伝子のようなものは脈々と受け継がれているはずなんです。

いい上司が一人いると、複数の部下を育て、その部下たちが上司になると、また複数の部下が育ちます。この連鎖によって、素晴らしい人材がどんどん社会へ送り込まれていくというのが、わたしの考える「上司学」の基本です。素晴らしい上司となり、優秀な部下を育てるということは、それだけ大きな社会貢献なのです。



わたしはどきどき「あの上司がいなかったら、自分はどうなっていただろう」と考えます。あなたも多くの部下にそう振り返ってもらえるような、振り返り上司になつて下さい。  
〔「上司のルール」より転載〕